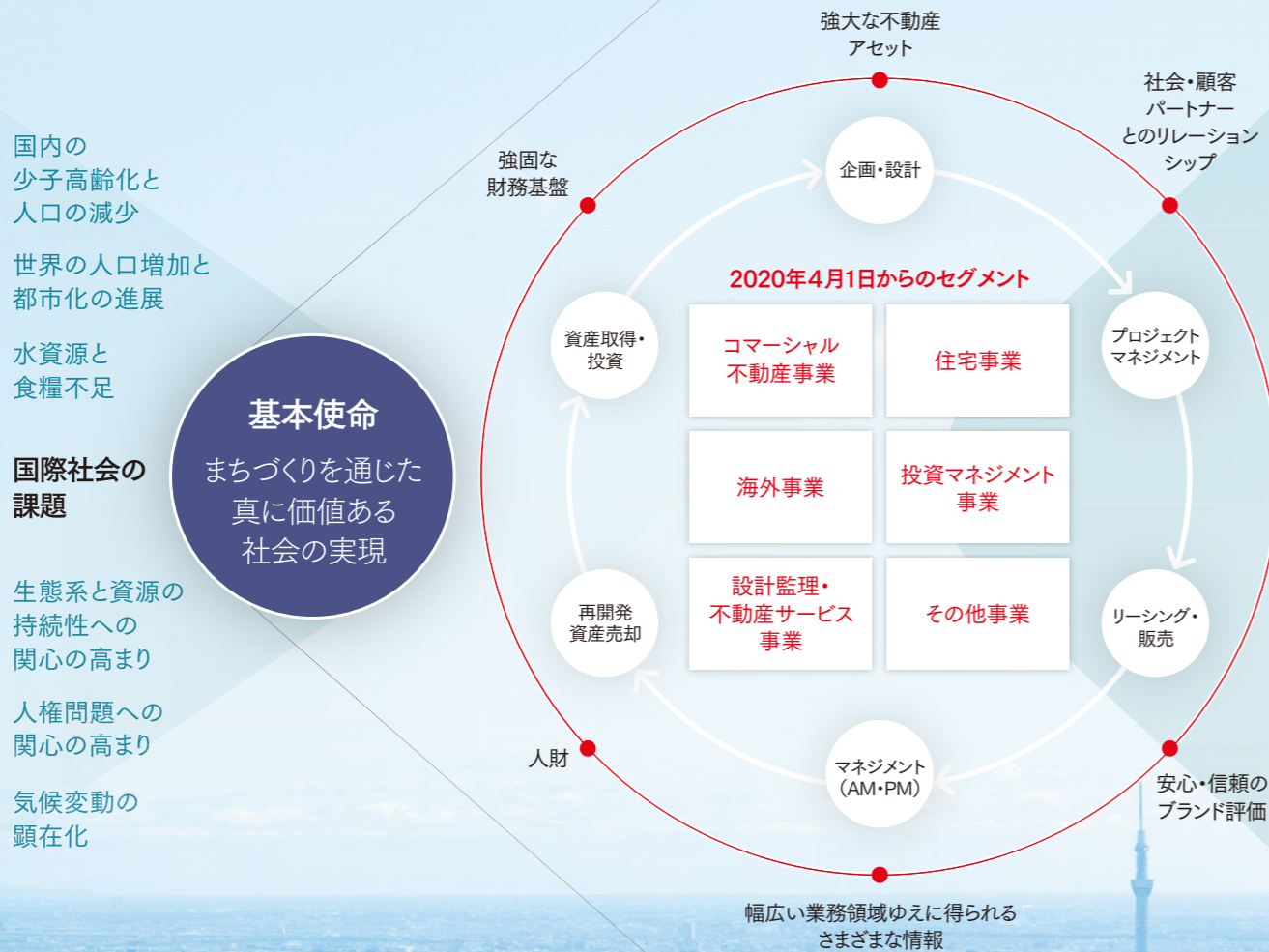


# 100年先を見つめた「まちづくり」を通じて 多様なステークホルダーとともに成長を分かち合う。

三菱地所グループは、さまざまなステークホルダーとともに成長していくために、国際社会の課題解決と、まちづくりという事業に共通する長期的な視点をもって2050年の当社グループのあるべき姿からバックキャストした「三菱地所グループのSustainable Development Goals 2030」を策定。2020年4月より開始する「長期経営計画2030」において一つひとつ実践していきます。



**基本使命**  
まちづくりを通じた  
真に価値ある  
社会の実現

## 国際社会と事業環境の変化を見据えて

三菱地所グループは、新たな価値創造に向けて、国際社会や事業展開する地域のニーズやトレンドなどを定期的に調査するほか、多様なステークホルダーの声を日常的に把握し続けています。国連SDGsを見据えた中長期的な成長戦略の策定も、その一つです。



## 多様な事業展開で培った「強み」を發揮

成長戦略の策定においては、50年100年という「超長期的視点でのまちづくり」と「時代を先取りするDNA」、そして「暮らしからビジネス、産業界までの幅広いステークホルダーとの接点」「膨大な国内外不動産への関与」といった強みを活かしています。

お客さま

お取引先

株主・投資家

地域社会

役員・社員

同業他社

メディア

行政

NPO・NGO

教育機関

## 三菱地所グループの現在地 (2019年3月期、連結)

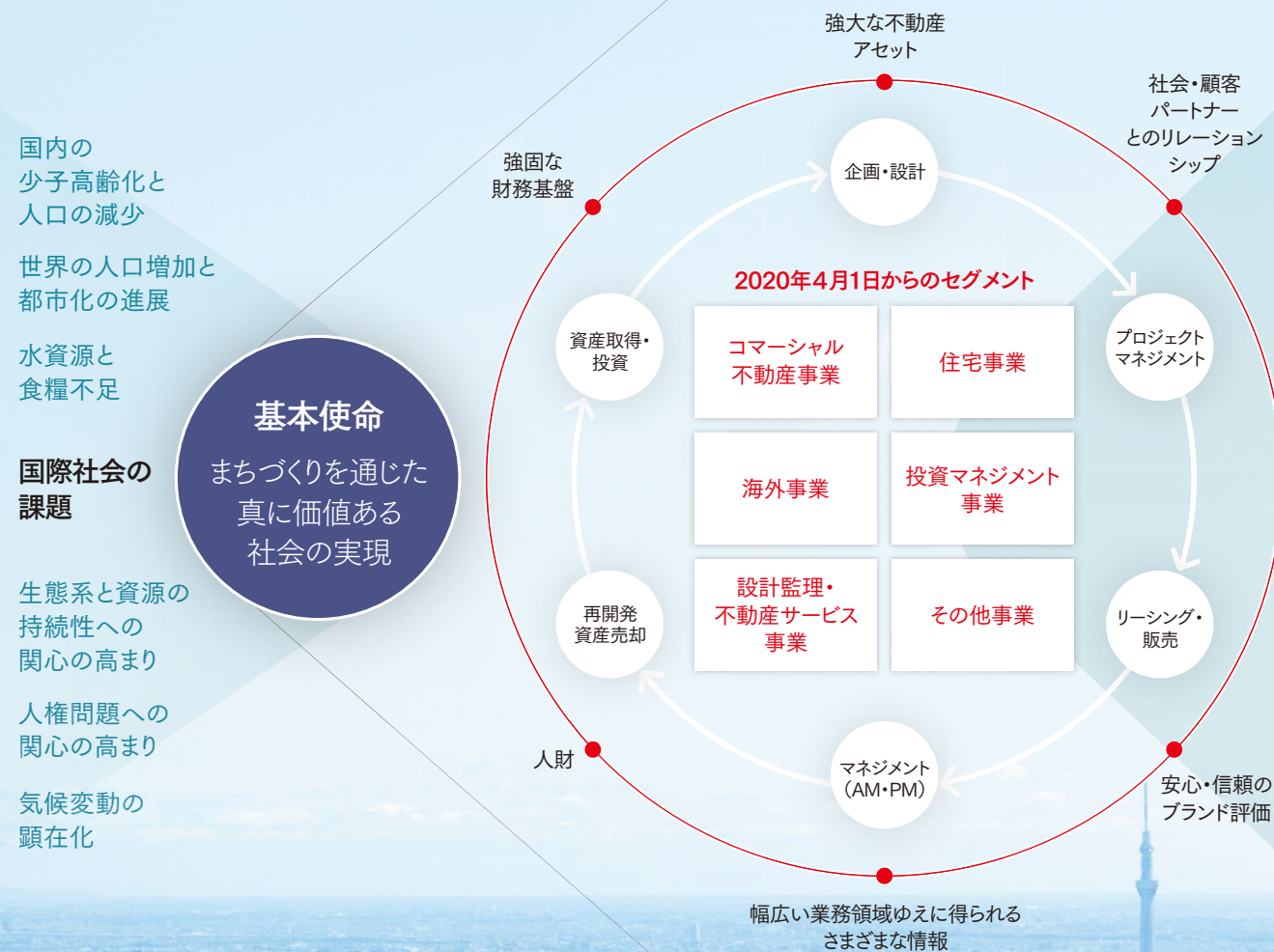
営業収益  
1兆2,632億円

総資産  
5兆7,741億円

従業員数  
9,439名

# 100年先を見つめた「まちづくり」を通じて 多様なステークホルダーとともに成長を分かち合う。

三菱地所グループは、さまざまなステークホルダーとともに成長していくために、国際社会の課題解決と、まちづくりという事業に共通する長期的な視点をもって2050年の当社グループのあるべき姿からバックキャストした「三菱地所グループのSustainable Development Goals 2030」を策定。2020年4月より開始する「長期経営計画2030」において一つひとつ実践していきます。



## 国際社会と事業環境の変化を見据えて

三菱地所グループは、新たな価値創造に向けて、国際社会や事業展開する地域のニーズやトレンドなどを定期的に調査するほか、多様なステークホルダーの声を日常的に把握し続けています。国連SDGsを見据えた中長期的な成長戦略の策定も、その一つです。



## 多様な事業展開で培った「強み」を発揮

成長戦略の策定においては、50年100年という「超長期的視点でのまちづくり」と「時代を先取りするDNA」、そして「暮らしからビジネス、産業界までの幅広いステークホルダーとの接点」「膨大な国内外不動産への関与」といった強みを活かしています。

お客さま

お取引先

株主・投資家

地域社会

役員・社員

同業他社

メディア

行政

NPO・NGO

教育機関

| マテリアリティ |     |
|---------|-----|
| 環境      | P24 |
| グローバルティ | P25 |
| コミュニティ  | P26 |
| ダイバーシティ | P27 |
| 少子高齢化   | P28 |
| ストック活用  | P29 |
| デジタル革新  | P30 |

## 長期経営計画2030

三菱地所グループは、「社会価値向上戦略」と「株主価値向上戦略」を両輪に据えた経営を実践していくために、2020年4月から「長期経営計画2030」に取り組んでいきます。また、社会価値向上戦略を推進していくために、4つの重要テーマから成る「三菱地所グループのSustainable Development Goals 2030」の達成を目指します。

### 三菱地所グループのSustainable Development Goals 2030 P18

三菱地所グループは、サステナブルな社会の実現に向けて、「Environment」「Diversity & Inclusion」「Innovation」「Resilience」の4つの重要テーマについて、より幅広いステークホルダーに、より深い価値を提供します。

|   |   |
|---|---|
| <p><b>1 Environment</b></p> <p>気候変動や環境課題に積極的に取り組む持続可能なまちづくり</p> | <p><b>2 Diversity &amp; Inclusion</b></p> <p>暮らし方の変化と人材の変化に対応しあらゆる方々が活躍できるまちづくり</p> |
| <p><b>3 Innovation</b></p> <p>新たな世界を生み出し続ける革新的なまちづくり</p>        | <p><b>4 Resilience</b></p> <p>安全安心に配慮し災害に対応する強靱でしなやかなまちづくり</p>                      |

事業を通じた価値提供による目標の実現

| 事業を通じた価値提供の視点 | Sustainability       | Quality Of Life     |
|---------------|----------------------|---------------------|
|               | “時代が抱える”社会課題への解決策の提供 | “時代の先を行く”サービスや体験の提供 |

## 三菱地所グループの Sustainability Vision 2050

# Be the Ecosystem Engineers

私たちは、立場の異なるあらゆる主体（個人・企業他）が、経済・環境・社会の全ての面で、持続的に共生関係を構築できる場と仕組み（＝エコシステム）を、提供する企業（＝エンジニアズ）であることを目指します。

P19

## 7つのマテリアリティを特定 (P16参照)

成長戦略を確かなものとしていくために、三菱地所グループは、「事業環境の変化」と「グループの事業ごとの強み」を踏まえ、将来の「機会」と「リスク」の観点から注力すべきテーマを「7つのマテリアリティ(サステナビリティ経営上の重要課題)」として特定しました。

## 2030年、2050年の目標達成へ

三菱地所グループは、2017年に策定した中期経営計画(2018年3月期～2020年3月期)における計数目標が達成見込みであることや資本政策、コーポレートガバナンスの強化などの成果を土台として、長期的にサステナブルにステークホルダーに対する価値提供を行うため、長期経営計画2030を策定し、マテリアリティを踏まえた「三菱地所グループのSDGs 2030」を定めました。また、2050年のありたい姿を定めた「Sustainability Vision 2050」を制定し、その実現に向けて、「三菱地所グループのSDGs2030」の4つの重要テーマに関する取り組みを実行していきます。

## ステークホルダーとの対話を起点に

三菱地所グループの事業は、さまざまなステークホルダーとの関わりの中で成立しています。また、「まちづくり」は多くのステークホルダーと関わることから、当社グループは、これらステークホルダーの信頼にお応えしながら事業活動を進めていく責務があります。さらに、直接的なビジネスの関わり以外でも、テナントビルのお客さまや地域社会のステークホルダーは、ともに持続可能な社会をつくり上げていくパート

ナーです。そこで例えば丸の内エリアでは、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会等を通じて日頃からの双方向のコミュニケーションを重視しています。

当社グループは、これら事業活動のほか、IR活動等を通じてさまざまな形でステークホルダーと対話し、その声を起点としたサステナビリティ経営の実践に努めています。

## 各ステークホルダーとの対話方法

| ステークホルダー | 定義                               | 対話の機会の例  | 主要なテーマ   |
|----------|----------------------------------|--|--|
| お客さま     | テナントビルの利用者、住宅・マンション契約者、各種業務発注者など | <ul style="list-style-type: none"> <li>●お客さま満足度調査・アンケート等</li> <li>●各種営業活動を通じたコミュニケーション</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●安全・安心なまちづくり</li> <li>●製品・サービスの品質・安全マネジメント</li> <li>●少子高齢化に対応したまちづくり</li> </ul> |
| 地域・社会    | 三菱地所グループの事業に関わる地域社会、地域住民等        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●有識者ステークホルダーミーティングの開催</li> <li>●行政、自治体、NPOとの協働を通じた対話</li> <li>●社会貢献活動</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域への経済的貢献</li> <li>●スマートコミュニティの推進</li> <li>●持続可能な森林資源の活用</li> </ul>            |
| 社員       | 三菱地所グループ社員                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●人事評価を通じたコミュニケーション</li> <li>●コンプライアンスアンケート等による対話</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●能力開発、多様な人材活用と均等な機会提供</li> <li>●安全と心身の健康維持</li> </ul>                           |
| 取引先      | 工事委託先、協会会社、調達先など                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●業務を通じたコミュニケーション</li> <li>●委託先評価制度、施工登録者研修会、品質安全推進大会などの開催</li> <li>●調達活動を通じたコミュニケーション</li> <li>●CSR調達ガイドラインの通知</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●サプライチェーンマネジメント</li> <li>●グリーン調達</li> <li>●安全・安心なまちづくり</li> </ul>               |
| 株主・投資家   | 個人・機関投資家                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●決算説明会(年2回)</li> <li>●アナリスト向けスモールミーティング・物件見学会</li> <li>●国内外機関投資家とのミーティング</li> <li>●各種IR関連ツールによるコミュニケーション</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●経済的パフォーマンス</li> <li>●健全な企業経営</li> </ul>  |

## 国際的なイニシアティブに対応

三菱地所グループは、中長期の成長戦略として海外事業の強化を掲げています。これら事業を円滑に推進していくためには、海外のステークホルダーとのコミュニケーションを推進していくとともに、サステナビリティに関する国際的なイニシアティブに対応することも重要です。

こうした考えをもとに、当社グループは、2018年4月に国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。当社グループは、「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗の防止」などの10原則に基づく、当社の事業に即した目標および指針を策定して経営のPDCAサイクルに活用することで、持続可能な社会の発展に貢献していきます。



## サステナビリティ推進体制

三菱地所グループではサステナビリティに対してより積極的に取り組み、三菱地所グループ全体のサステナビリティの推進を図るため、三菱地所(株)の執行役社長を委員長とし、各事業グループ、コーポレートスタッフ担当役員、主要グループ会社のトップ等で構成される「サステナビリティ委員会」を設置するとともに、その事前協議機関として「サステナビリティ協議会」を設けています。

